

分科会報告 ①-3

1. コーディネーター 佐藤昌子
2. テーマ 地方から発信する「豊かな暮らし」
3. 参加者数 9名（宮城県1名 山形県8名）
4. ディスカッション内容

はじめに

参加者は地元でイベントを立ち上げている人、整理のプロ「ライフオーガナイザー」の資格を持つ人、コーヒーをテーマに事業を立ち上げた人、会社員、短大生、高校生と職種も世代も違う方たちでした。

内容

精神的あるいは物理的なこと、「豊かな暮らし」の捉え方は人によって異なりますが、皆さんから出た意見に共通していたのは「精神的な豊かさ」でした。仕事や活動を通し、地域と人、人と人とのつながりの中から豊かさを見い出している方も多くいました。関東から山形県に嫁ぎ、三世代の中で暮らしてきた方からは「都会ではなく、田舎だったからこそ様々な発想ができ、自分の居場所を見つけられた」という話がありました。

地方から発信していくためには、地元を知る必要があります。つい、「私の街には何もなくて」と言ってしまうがちですが、それは良さや豊かさを知らないだけ。知れば、自ら発信することもできます。「地元の素晴らしさを発信して、街を元気にしたい」という声も多くありました。地方から発信する、地域の人たちに発信する、両面からアプローチが必要だという意見も。

参加してくれた高校生、短大生は地域活動に参加したり、地域創生について考えたりしている方たちばかりでした。「大学卒業後は地元に戻り、地域を元気にすることに関わりたい」という言葉に、頼もしさを感じながら、分科会を閉じました。

まとめ

◇話し合いの中から

- ・人との繋がりが豊かな暮らしにつながる。その土地に住んでいる人たちの思いも受け止めながら、一緒に地域を盛り上げていく活動を続けていきたい。
- ・心に余裕がある暮らし＝豊かな暮らし。そのためには仲間とホッとできる場所が必要。
- ・自分にとっての豊かさは、ときめいてワクワクしてすること。
- ・みんなが笑顔でいることが豊かな暮らしだと思う。
- ・自分の住む街の良さを知らないことが多いので、情報のアンテナを立ててもっと「魅力」を知ることが豊かな暮らしにつながる。
- ・人から必要とされることが、心の豊かさにつながる。
- ・本当の豊かさ(宝物)は自分自身の中や家族の中にある。
- ・地域から発信するイベント等について、情報の発信(SNSなどを含め)は民間、仕組みづくりは行政。両者が合致した時にうまくいく。